



原田泰治ギャラリーのある蓼科に行ったとき本を見つけました。原田泰治は以前、朝日新聞の日曜版や、週刊新潮の表紙に出ていたので知っていましたが、たいして興味のある画家ではありませんでした。今回、一緒に行った友がこの美術館に行こうと言うので立ち寄りこの本をみつけたというわけです。

今回沢山の作品を見ていて、日本の原風景と心温まる作風に写真に共通する構図も素敵でした。この人はどんな生き方をした人なんだろうと、また、有名人の父がその子の生い立ちを書くというのも珍しいと思い買いました。

1940年生まれの泰治は戦前、戦後の苦難の信州で育っていました。小児麻痺で歩けなかった泰治を中心に原家の歩んだ家族の歴史です。

エジソンは「天才とは1%の天分と99%の努力である」といわれましたが、私は「1%の天分と70%の運と29%の努力である」思います。父親の人生で出会う様々な痔木戸も出た的確な判断と泰治の第二の母親の果たした役割も家族全体の果たした役割は大きかったと思います。

とにかく肥沃な大地に良い作物が出来るように、子どもが育つには家庭の土台がいかに大事を感じ、これはある意味、育児書でもあると思いました。家庭とは何か？ 今だに壊れて来ている家族とか家庭を考えさせられた。